

令和5年度

大江町 地域おこし協力隊 活動報告書





春山 瑞季

出身地：長野県富士見町
着任：令和4年4月

大江町に出会ってから6年になりました。長野県から大学進学のため、山形県に移住。山形での初めての秋に大学の先輩たちに連れられ、大江町の秋祭りに参加させていただいたのが、大江町との出会いです。協力隊に就いて2年目となりました。学生時代には知らなかった景色を見たり、人に出会ったり、ここ大江町で多くの経験をさせていただいています。

profile

1999/5/12 生まれ
東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科卒業後、新卒で協力隊に着任

好きな食べ物：ラーメン
大江の好きな場所：最上川河畔

社会教育士の資格を取りました！

県立左沢高校の総合的な探究の時間へのサポート

県立左沢高校では、総合的な探究の時間「課題探究Ⅰ」を2年次生が行なっています。地域課題の解決に向けたアクションを行うことがこの授業の特徴です。私の役割はその活動の中で高校生が主体的に学んで行けるようにサポートすることです。具体的な内容としては、授業の内容を主担当の先生と一緒に作ることや、授業の中で生徒と話し、活動の中で生まれる困りごとと一緒に解消していくことが挙げられます。そのほかにも、地域にあるスポットや協力して下さる地域住民の方々をコーディネートしています。



今年度は9つの班で活動しました。(表1)全ての班がアクションを起こし、発表まですることができました。この活動を通して、生徒アンケートからは、コミュニケーション力や課題発見能力、発表力が伸びたと回答がありました。

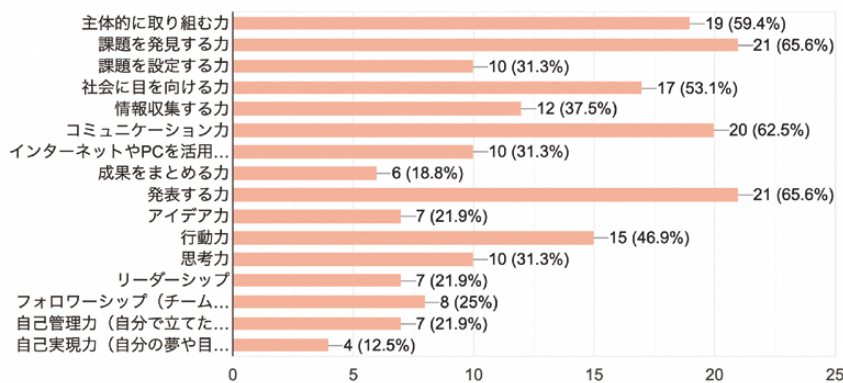
表1

| 班 | 分野 | 内容 |
|---|-------|----------------------------|
| 1 | 歴史・文化 | 高校生がガイドする大江町ツアーの開催 |
| 2 | | 大江町の文化を守るボランティアネットワークづくり |
| 3 | 農 | 西村山地域の方言かるたの作成 |
| 4 | | 米袋のパッケージデザイン・作成 |
| 5 | | お米の販売促進POPの作成 |
| 6 | 暮らし | 条件付き特定外来種の扱い方を広める講座を実施 |
| 7 | | 大江町のことを広めるSNSの運用とパンフレットの作成 |
| 8 | 福祉・教育 | 子育て世代に向けたイベントの実施 |
| 9 | | 介護に関する意識調査と介護の魅力を伝えるポスター作り |

スキルの他にもこの1年間で生徒たちは自分に自信を持ったり、この地域のことを好きになったりと内面の变化もあったように思えます。(表2)

表2

10. 探究の時間でどんな力が身についていますか？当てはまるものを全てチェックしてください
32件の回答



左沢高校の
HPはこちら



この授業には、地域住民の方 40 名ほど関わっていただいています。普段の高校生活では出会えないような方々と出会い、背中を押してもらうことで、世界を広げ、より活動の質を上げていきます。

生徒の活動にご協力をいただいた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。地域課題の解決を目指すことがこの授業での目標である以上、地域の皆様のご協力は欠かせません。

島根大学社会教育主事講習

社会教育士の資格取得と、地域コーディネーターの称号を得るため、島根大学で行われている、社会教育主事講習を受講しました。2023年7月から2024年1月まで、オンラインで受講しました。また、島根県松江市にある島根大学でも3回にわたり集中講義があり、島根県を訪れました。社会教育とは何たるものかから始まり、学校教育と社会教育のコラボレーションによるまちづくりや、地域コーディネーターとして、持続的かつ魅力的なひとづくり／まちづくりの手法を学びました。これから、得た学びを還元していきます。



来年度も引き続き、ご協力のほどよろしくお願いたします。

これらの活動の記録として、「はなまる探究」という通信を発行しています。左沢高校のホームページから見ることができますので、ぜひご覧ください。

左沢高校への応援、よろしくお願いたします！

キッカケ書店開店！

10代に向けた本を受渡する古本屋をマルシェで開きました。書店に置いている古本は全て、町民の方から「10代に読んでもらいたい」という思いで寄贈していただいたものです。本を通して大人と10代のコミュニケーションを創発し、10代のキャリア形成を図ります。古本は100冊近くが集まりました。当日は、大人も子どもも立ち寄ってください、10人ほどの子どもたちに本を受け渡すことができました。今後も、キッカケ書店を開き、子どもたちに本を届けられるように努めていきます。



ぷくちゃん展



大沼 瑞季

出身地：寒河江市
着任：令和4年8月

大江町のとなり、寒河江市出身。左沢高等学校へ通っていましたが、高校生活は地域の方と関わらせていただく機会が多く、人と触れ合うことの楽しさに気が付き、週末はボランティアを探しては様々な活動に参加しました。そんな中で2015年からお手伝いさせていただいた大江町の博覧会シェイクラボの出店ブースで東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科の活動を知り、旧きらやか銀行跡地の利活用を考える「まちづくり交流会」に参加。その後一度は地元寒河江市の観光ホテルに就職し、接客サービスを学びました。

当時関わらせていただいた建物が「まちなか交流館 ATERA」へ生まれ変わり、現在の活動地となっています。そんな高校生の頃からのご縁がつながり、着任2年目を迎えました。

町の資産としてのぷくちゃんの再魅力化と知名度のアップを目指し、町内外のヤマガタダイカイギユウ（ぷくちゃん）に関する物品を集めた展示会を開きました。展示物はぬりえなど子供も気軽に参加できるのものも制作し、企画を通してぷくちゃんをより身近なものに感じてもらえるようにしました。期間は「ぷく」にちなみ29日を含む9月28日から10月1日の4日間、ATERA2階ホールにて開催。

企画に至った背景として、現状として山形県を代表する資産であるヤマガタダイカイギユウが「発掘された町」としてその魅力を十分に活かすことができていないのではないかと感じているためです。近年町営バスのバス停など公共物を中心にその姿を見る機会が増えました。しかしなぜヤマガタダイカイギユウが大江町にあるのか、縄文の女神が舟形町から出土したことの認知度に比べヤマガタダイカイギユウが大江町で発見されたことを知る人は少ないのではないのでしょうか。大江町の資源や資産は歴史文化や景観、自然の豊かさ、農作物や環境など無形のものが多いと、他市町村との差別化がわかりにくい面があると思います。ヤマガタダイカイギユウは見た目キャラクター的でわかりやすく、大江町にしかない。加えて流行り廃りがないので多世代にキャラクターとして認識されています。大江町にある「時代を超えたかわいキャラクター」としてのぷくちゃんの魅力を再認識していただけるよう、ぷくちゃんがいる大江町に住んでいることを誇りに感じてもらえるようにと考え実施に及びました。



展示には4日間の開催で約120名の来場がありました。町営ラッピングバスの模型や町のSNSぬいぐるみをはじめ、絵本「ぷくちゃんのぼうけん」やみなさんに参加していただいたぬりえ作品、県立博物館よりお借りした原寸大頭骨レプリカなどが並びました。会場スクリーンでは大江町の歴代CM大賞応募作品と、ヤマガタダイカイギユウの子孫であるステラーカイギユウの絶滅までの動画をながし、ぷくちゃんだけでなく町の特産や観光スポットの紹介も兼ねておこないました。

また、29日(ぶくの日)は来場してくれた方へぶくちゃんペーパークラフトのプレゼントをおこないました。中には健康温泉館テルメに訪れた際、新しくなった湯口でぶくちゃんを知り、今回の展示に町外から足を運んでくださった方もいました。町の説明も交えながら楽しくお話しができました。最終日には山形県立博物館の学芸員瀬戸大暉先生をお招きし、ヤマガタダイカイギウに関する特別講演をいただきました。私自身はじめて知ることも多く、とても楽しく学びのあるお話でした。ぶくちゃんについてさらに知識を深めたいです。



つむぎ結縁市

昨年に引き続き13区の会場とATERAをつなぐ約400mをフィールドに、今年度は2度の開催となりました。謎解きウォークラリーをはじめ、8月の夏休み企画ではプールに浮かべた野菜を釣る野菜釣り、10月のハロウィン企画ではおぼけかぼちゃの重さ当てと、子供も楽しめる体験ブースを設置しました。



8月は林武一郎商店さんをお招きし3色アイスを販売。10月はATERAとの連携で作っていただいたかぼちゃの濃厚なしっとり生地がおいしい限定コラボメニュー「かぼちゃのチーズケーキ」が2日間両日完売となりました。毎回恒例となった食器類をはじめキャンプ道具やレトロ家電、雑貨を取り扱う蚤の市ブースでは使い方の説明や思い出話をしてくださる方もおり、足を運んでくださった地域の方とお話をするきっかけになりました。

2年目となる今年度も、開催にあたり地域の方々始めご協力いただいたみなさん、ご来場いただいたみなさん、ありがとうございました。

道の駅

リニューアルする道の駅内のレストランで提供するメニューの試食に参加させていただいています。メニューは果物など地元の食材を多く取り入れ、それぞれの持ち味を活かしたちょっと変わったアレンジメニューもあり毎回発見がたくさんです。私自身料理をするのが好きなので調理段階から楽しく参加させていただいています。

また、左沢高校で作った加工品を道の駅で販売するにあたり、高校と道の駅連携事業にもパッケージイラスト等でお手伝いさせていただいています。主にジャムの容器についての打合せをしていますが、普段気に留めないだけでスーパーに売っているものだけでも多くの種類があり、出先でデザインのチェックをすることが増えました。関わらせていただいているものも、多くの方の手に取ってもらえるデザインにしていきたいです。どんな完成品になるのかとても楽しみです。



その他の活動

ATERAでのイベントをはじめ堤防建設に関わる説明会、元屋敷遺跡発掘現場現地説明会、左沢小学校のぶくちゃんに関する授業のサポート、灯ろう流し花火大会、物産味覚まつりなど町内のいろいろなイベントに参加しました。今年度も新しい学びと出会いがたくさんありました。今後も季節や日々の変化を楽しみながら大江町に触れ、その魅力を発信するお手伝いができればと思います。





神保 南



出身地：群馬県前橋市
着任：令和5年4月～

出身は群馬県前橋市で、大学進学をきっかけに栃木県宇都宮市へ移住し、就職しました。どちらの住まいでも、主に市街地で過ごす機会が多かったと思います。幼少期は家でゲームに没頭することが多く、外で遊ぶことは好まない子供でした。しかし、社会人になってからは休日に出外することが増え、キャンプなどの屋外の趣味を楽しむようになりました。その結果次第に自然の中で生活し、働くことに対する憧れが強まっていったのを覚えています。

そんな中で見つけたのが、現在私が活動拠点としている「大江町山里交流館やまさあーべ」で開催されたイベントです。このイベントは「おためし地域おこし協力隊」として2泊3日の期間、地域おこし協力隊の活動を体験するものでした。このイベントを通じ、実際に大江町の方々と交流や、やまさあーべの自然体験を経験できたことが、地域おこし協力隊として着任することに繋がりました。

やまさあーべでの活動

活動拠点であるやまさあーべについてはご存じの方も多いと思いますが、四季に合わせた様々な体験プログラムを提供しています。活動内容としては、田んぼなどの外作業、各体験プログラムの準備及びガイドとしてお客様をご案内しています。今年度、コロナによる数々の制限が緩和されました。団体での利用者も増加し、地域の方々（本郷東小学校やにじいろ保育園など）にも広く利用していただき、様々な方とやまさあーべを通じて交流することができました。

ガイドとしてお客様をお連れするのは、やまさあーべに着任し未経験でのスタートでした。本などで勉強することも大切ですが、実際にガイドしながらの方が学べることは多く、積極的にガイドを担当させてもらうように活動していました。

初めて本格的にガイドを務めたのは夏に行われるリバートレッキングです。リバートレッキングは、やまさあーべ前を流れる月布川を約1km下流から上流に向かって登り、途中で流されたり、飛び込んだりしながらやまさあーべまで戻る体験です。子供だけでなく、大人でも楽しめるプログラムで、大江町の自然を全力で楽しむことができます。ガイドする前には川の状態を確認しどのコースを進むか、飛び込みはできそうか、自然を相手にしているのでその都度判断が必要となってくるのがガイドしていて難しいと感じる所です。リバートレッキングのようなプログラムとなると、安全面の配慮が特にシビアになってきます。特に天気による影響は大きいいため、ガイドする者として、自然への理解をさらに深めていくことが安心して利用してもらうことに繋がると考えています。



自然保護を知る

体験プログラムの一環として、納豆ご飯と豆腐の味噌汁をイチから作る体験があります。年間で全5回にわたり、参加者とスタッフが協力して日本の食卓を作り上げ

ることが目標となります。普段何気なく食べている食卓を作り上げるまでにどれだけの工程、苦労があるかを体験できる内容で、お客様連れの方にご好評いただいています。



やまさあべで田んぼを管理している理由は、先述のイベントで作って食べるためというのも1つありますが、もう一つ大事な役割があることを活動を通して知りました。それは田んぼを管理することで多様な生物の住処を守ることです。やまさあべでは田んぼ周辺で生き物を探すプログラムを定期的開催しています。その中で出てくるのは絶滅が心配されている生き物も少なくありません。米を作ること、生きものの住処になっていること。田んぼがこれら2つの役割を持ち合わせている。とても単純に聞こえますが、そのためには冬場にも田んぼを管理しなければなりません。もし、田んぼが使われなくなるとその環境にいた生き物はいなくなっていくます。

いかにして人間と自然が共存していくべきか、個人でできることは限られますが、活動の中で積極的に学び、伝える役割を担うことで、少しでも多くのひとに考えるきっかけを与えていければと思います。



イベントの企画

やまさあべが開催するイベントの中でも、特に人気なのが小学生限定の2泊3日のイベントです。今年9月には、「目指せ！超・水遊びマスター」と銘打ち、初め

て企画・運営を担当させていただきました。

このイベントでは、水をテーマとした遊び・工作・実験を子どもたちに体験させるというコンセプトで、やまさあべの人気プログラムであるリポートレッキングを含め、さまざまな水に関する体験プログラムを盛り込みました。特に力を入れて新しく企画したのが、「ウォーターサバイバルゲーム」です。このゲームは、金魚ポイを頭につけ、水鉄砲を持ちながらダンボールの障害物をうまく利用して相手の金魚ポイを狙うというものです。やまさあべの広大なグラウンドを使って約20名の子どもたちが水浸しで遊ぶ姿は、イベント最高潮の盛り上がりを見せてくれました。子どもたちに2泊3日の感想を聞いても、このプログラムが一番楽しかったと答えてくれる子が多く、活動のモチベーションにもなっております。



一方で、改善点も見受けられました。安全性やコストの観点からやむを得ない選択でしたが、障害物の素材を段ボールとしたことで、ずぶ濡れになってしまい使い捨ての状態になってしまったことが課題となりました。今回の子どもたちの盛り上がり考慮し、今後も夏の定番プログラムとして継続していくためにも毎回障害物の作成から準備していたのでは間に合いません。シーズンを跨いで使用できるような障害物を導入することで改善していく予定です。是非遊びに来てみてください。



空き家の魅力を 写真と文章で伝える



屋宜 美奈子

出身地：沖縄県那覇市
着任：令和5年4月

就職を機に沖縄から上京し、東京で10年暮らしていました。好奇心をくすぐられる刺激的な生活も楽しいけれど、コロナ禍をきっかけに、満員電車で往復2時間かけての通勤、商品やサービスの先にいる人や気持ちを大切にできない仕事にも疑問を持つように。

そんなころ、「食」に興味をもって何度か訪れた山形。食材や郷土料理のおいしさに感動しただけでなく、おだやかだけど、自分たちの手で仕事や暮らし、日々の楽しみをつくりだす人たちに出会い、「こんなふうに自分も暮らしていけたら」と思うようになりました。

これからの生き方を模索する中で「あるものを活かすこと」、「自分が心動くものを伝える仕事をする」と大切にしたいと気づいたころに見つけた大江町の協力隊の募集。

翌日の午前中に書類を提出しないと締切に間に合わないという状況でしたが、「まずは挑戦してみたい」と応募し、応募から約2週間で山形への移住が決まったのです。

山形県内で多数の自治体の募集があるなか、大江町に応募したのは「写真と文章で空き家を生かす仕事」という募集内容に惹かれたからです。

東京で暮らしていたころ、歳を重ねるごとに話題に上がるようになった「マイホーム購入」のこと。

歴史ある建築物に胸を打たれたり、古い木造建築を活かしたお店で過ごす時間がお気に入りだった私は「新築がいい」、「やっぱり都心・駅近のマンションだよな」という風潮にどこかなじめずにいました。

以前から空き家や今は使われていない施設などを活かす取り組みに関心はありましたが、地方移住という文脈や協力隊の募集で登場する「空き家利活用」という言葉に対し、「具体的に何をしたら良いかわからない」、「起業したり、何か大きなことをしなければならぬ気がする」と思い込んでいました。

大江町の募集は協力隊として何を望まれているかが明確だったので、これまでの経験を活かしながら「歴史ある建物やひとの暮らしを知ることが好き」という思いを持って仕事ができると思えたのです。

私が着任してから2023年末までの間に、空き家を手放したい方からのご相談は約50件。

ご相談に来る方の中には「こんな古いおうちですが…」、「解体するしかないと思っていた」などとおっしゃる方もいました。

実際におうちにお伺いしてみると、立派なお蔵があったり、美しい梁や欄間が残っていたり。ひとつひとつ異なるおうちにおじゃまるたびに、そこで暮らしてきた人たちの物語が思い浮かんできました。



建具やタイル、窓の外の景色などできるだけたくさん写真を撮り、紹介する文章はストーリー仕立てに。おうちの条件や状態だけでなく「わたしが感じた魅力」や、「このおうちをどんな方がほしいと思うか」をイメージした言葉選びを意識しながら記事を書き進めていました。

ストーリー仕立てでの紹介記事がだれかの心に届くのだろうか、記事を読んでおうちがほしいと思ってくれる方がいるのだろうか。自分の中ではじめての取り組みだったので不安もありました。

着任後にはじめてお伺いしたおうちの情報を公開したあと、持ち主さんから「記事を読んで涙が出ました」とメールが来たことを今でも覚えています。

協力隊としてわかりやすい成果は、早く、たくさんの成約が決まることだと思いますが、目には見えない持ち主さんの想いを代わりに伝えることができたのかなと感じた出来事でした。



2023年秋からはルームツアー動画の投稿（後述「おおえぐらし」Instagramでの公開）もはじめたり、同年11月に東京で開催された「やまがた移住・交流フェア」では不動産屋さんの軒先に掲示される物件情報を模したポスターを作成し、参加者とのコミュニケーションにつなげるなど、これまでの形式にとらわれない挑戦もおこないました。

また、県内の地域おこし協力隊の研修（空き家利活用分野）にて、県内での成功事例として発表をさせていただきました。

今年度（2024年1月末時点）で成約のあった（賃貸含む）おうちは10件。

これからもひとつでも多くのおうちを新しい持ち主にバトンタッチできるよう、次年度は「空き家対策セミナー」を企画しています。

わたしが体験した「おおえぐらし」を伝える



Webメディアの編集やSNS運用の仕事をしてきた経験を活かし、移住情報サイト「おおえぐらし」での記事の制作と、移住者目線で町のことを伝える

Webメディアの編集やSNS運用の仕事をしてきた経験を活かし、移住情報サイト「おおえぐらし」での記事の制作と、移住者目線で町のことを伝える

Instagramアカウントを立ち上げました。

「大江町のことを多くのひとに知ってほしい」という想いはありつつも、たくさんの方に広めるのは容易いことではありません。まずは私が「気になる、体験してみたい、心が動く」ことを写真で切り取り、家族や親しい友人に大江町のことをおしゃべりするつもりで運用していました。（Webサイトではある程度公向けに、InstagramではWebサイトよりもくだけた印象で書くようにしました。）

取材を続ける中で顔見知りの方も増えていき、「感性がすてきね」と言ってもらえること、「こんなイベントがあるから取材に来ない？」とのお誘いも出てきたり、「きのこ採りをしたい」と相談した農家さんには、原木きのこを見つけるまで3度も林や森へ連れていっていただきました。



町内の営みや催しに参加し、人々とお話したりこれまでにない体験をしたことは、自身の大きな糧となりました。山道をはねる野うさぎを見たこと、スーパーで買うのが当たり前だった野菜やくだものが作られる様子を間近で見て、収穫して食べることを、行事やイベントで町を元気にするために手を動かしている人々と関わるからこそ見えたもの、感じたことがたくさんありました。



Webサイトの記事やInstagramの投稿を通して、町のみなさんが「日常、当たり前」だと思っていることがすてきなもの・ことであると認識してもらえたり、東京や県外にいる友人知人が山形や農業に興味を持ってくれたり、私のまわりから少しずつ、大江や山形のこと伝わってきているのかなと思っています。

また、Instagramでは町出身の方から「大江の風景をなつかしんでいます」とDMをいただいたり、稲刈りの動画の再生数が1万回を超えることもあり、SNSならではのコミュニケーションを実践し続けられたと感じています。

「おおえぐらし」のInstagramアカウント、ぜひフォローしていただけると嬉しいです！



00E_LIFE_YAMAGATA



堀内 愛



出身地：静岡県浜松市
着任：令和5年4月



静岡県浜松市近隣で生まれ育ち、大学は京都に進学しました。人に喜ばれる仕事がしたいとの想いから、地元のホテル・旅館に就職。ここではサービスや、ホームページ等のWEB関連、テレビ・雑誌などの広報業務を経験しました。その後、東京のIT会社でメールマガジンのディレクター業務、ホームページの更新などを担当しました。出産を機に家庭に入っていましたが、夫の「農業がしたい」の一言で、家族4人で移住してきました。初めての東北で不安だらけの中、町民の皆さんの温かさに触れ、今までの経験を活かしながらお役に立てたらと思い、協力隊に着任しました。

農業を志す最初の一步

今年度の活動のメインは新規就農希望者の支援です。大江町には就農研修生受入協議会（OSINの会）がありますので、OSINの会の活動・運営に携わることが多かったです。



まずは東京で開催される新・農業人フェアで、農業に興味関心のある方に大江町の就農支援制度を紹介し、実際に町に来て、就農支援関連施設を見てもらう1泊2日の現地見学会への参加を促します。初めは「農業に興味はあるけど、生活が成り立つのか不安」という状態で来られる方が多いですが、帰る頃には「ここで農業に挑戦したい」と表情が変わる方がいらっしゃるの、その変化の様子を感じられるのがとても嬉しいです。その後、1週間ほどの短期研修で農作業や大江町での暮らしの体験を経て、移住・研修の意思決定をしてもらいます。

告知の段階から実際に移住されるまで、いろんな方や関連団体と連携を取りながら行うので、大きな決断をされる方のサポートができたときには特別なやりがいを感じます。

今後も絶え間なく、「研修生がいて、独立就農していく」という流れを作る一員でありたいです。



大江町や農産物を 知ってもらう

PR活動としては、OSINの会のホームページやSNSの運用・マルシェ・各種メディアの対応を行いました。ブログやInstagramでは農家の皆さんの日常作業の様子や町内のイベントを掲載していて、「大江町で農家に

なる」イメージを具体化できるように発信しています。作業を間近で見ていると、農作物の成長ぶりや農家さんの工夫など、興味深いことがたくさんあります。



6月にアカウントを開設し、イベントの度に少しずつフォロワーが増えているので、今後も地道に続けていき、農業という職業のおもしろさ・やりがいを広く知ってもらえたらと思います。

マルシェでは「山形の果物って美味しいよね」というお話から「大江町ってどんな所？」と聞いてくださる方が多く、買い手の皆さんの反応を直接感じられるというだけではなく、認知度を上げる大切な場になっていると感じました。私自身ももっと町や県について理解を深めていきたいです。



また、今年度は他市町村からの視察や、新聞・WEBメディアの取材が多数あり、繁忙期の農家さんに代わってスケジュール等の調整や校閲を行っていました。農家さんの負担が少しでも軽くなることで、PRの機会が増えるといいなと思います。中には就農を目指す主人と、その家族が協力隊として活動しているのは全国的に珍しいと興味を持ってくださる媒体・団体もありました。新聞やwebメディアなど、たくさんの方が見られる媒体に掲載されたことは良い経験になりました。今後も積極的にPR活動に携わっていきたいと思います



就農希望者の 良き相談相手に

就農にはそれぞれの想い・計画や背景があり、その都度パターンが違いますが、今後も勉強・経験を重ねて、独立就農だけでなく幅広く対応できるようになりたいです。また移住・就農には大きな心配・不安がつきものなので、制度だけではなく気持ちに寄り添った案内を心掛け、移住後も相談しやすい窓口であり続けたいと思います。

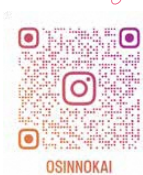


私たち家族が先輩農家さん一家の話を聞いて移住してきた様に、これからの移住・就農を検討している方たちの参考になれば嬉しいです。

OSINの会の
HPはこちら



OSINの会の
Instagramはこちら



地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化が進む地域に、都市から移り住んで、地域力を高める活動をしてもらう。また、都市の住民は、豊かな自然環境や歴史文化に恵まれた、いわゆる田舎で生活する、地域社会に貢献できる機会を得ることができる。これを実現するため、市町村等が地域おこし協力隊として都市住民を受け入れ、いろいろな地域協力活動をしていただく取組みです。平成21年に総務省がスタートさせました。

令和4年度は全国で6,447名の隊員が活動しました。

大江町では平成25年度に地域おこし協力隊の受入を開始し、これまで17名の隊員が様々な分野で活動しました。

地域おこし協力隊はどの隊員も「大江町初心者」です。お会いする機会がございましたら気軽に声をかけいただき、温かくご指導賜りますようお願いいたします。

令和5年度 大江町地域おこし協力隊活動報告書

執筆／春山 瑞季、大沼 瑞季、神保 南、屋宜美奈子、堀内 愛

発行／大江町地域振興課 〒990-1101 山形県西村山郡大江町大字左沢 882-1 TEL0237-84-1503